

無法・不公平

一掃せずして、心の春遠し

3月議会は5日開会し、19日(月)に議案の討論・採決、一般質問などが行なわれ閉会の予定。一般質問は中田議員、西澤議員、山田議員の順です。午前中に終了する見込み。西澤議員の質問要旨を紹介します。

甲良ふるさと交流村 構想について

計画が進行する一方で、若者の流失、農地の無断埋め立てなど無法の放置、国保・新築資金などの滞納、産廃施設の進出・・・足元事情がおぼつかない矛盾材料があふれている。

- 1、町民、農業者、とりわけ専業農家が計画の中心に座っているか。住民アンケートを実施し、その意見の公開を。
- 2、湖東三山インター開発もプラス要素というが、従来の「箱をつくれば発展する」論理と変わらない。不確定・不安定な事業計画を前提に需要予測などを立てることは誤りにつながるのでは。
- 3、農業生産の実績、販売実績は向上しているのか。
- 4、「拠点施設」から13集落へ波及するとの理論にはどのような根拠があるのか。
- 5、「元気になる」基礎は、おコメも含め、野菜、

甲良民報

2007年3月11日 352号
発行責任：日本共産党甲良町支部
代表：西澤伸明 甲良町在士463
Tel.Fax38-4949

Eメール info@jcp-nobuaki.com
のぶあきホームページ
<http://www.jcp-nobuaki.com/>



果実、花、加工品などへの指導充実、販路開拓とコスト支援予算の思い切った配分が必要では。

町有地の管理について

- 1、町有地に町行政が進んで占有を容認してきた形跡が考えられる具体的ケースをどう説明するのか。それをなぜ容認してきたのか。
 - * 町所有地に上水道メータと汚水マスの設置
 - * 建築確認申請の時に所有者(町)の承諾
- 2、固定資産税の「課税漏れ」(実際は課税見逃しだが)が新たに明らかになっているが、「5年権限」を厳正に発動すべきでは。
- 3、一般会計での「保有」と特別会計での保有を区分した理由は。
- 4、現実的処理と根本問題の解決をどうするか。補助金の利用目的に合っているのか・・・など。

「旧同和」特別体制の 早期終結を

「差別の源」を解決することこそ重要ではないのか。(貧困、無法、利権、偏見・・・など)

- 1、継続の根拠としている「厳しい差別ある限り」には重大な矛盾があるのでは。
- 2、現状(生活・住環境など)の実態にそぐわない事業・予算そのものが「問題の解決」に逆行しているのでは。

委員会で**議員報酬案否決！！** 9日、総務文教常任委員会が開かれ、付託審議された議案の内、議員の報酬削減案は、西澤委員だけ賛成、他の委員がそれぞれの理由をつけ反対したため否決されました。町長、教育長の給与削減案は可決されました。同委員会で反対したのは北川豊昭・田中・宮本・山田・奥山各議員。藤堂議員は委員長のため採決に加わらず。19日本会議で採決の予定。

またゾロ、町民をペテン ウラ財産?売却収入計上

5日、土地取得造成特別会計18年度補正予算が他の議案と共に提案され、歳入で「財産売却収入」の内訳に関し、西澤議員の質問で、呉竹9件の内には公募売却の5筆が含まれていることが判明。

西澤議員は「公募売却の内の尼子団地分譲宅地4筆は一般会計で保有。土地特別会計リストにはない。なのに、その売払い収入を計上するのは全くおかしいではないか」(発言要旨)と追求。すると、村田人権主監は、公募売却した5筆の内、一般会計で保有していた分譲宅地4筆は財産調書には記載していなかったが、上部の決済を仰いで、今回、特別会計の収入にあげた、と回答しました。

西澤議員は、とんでもないデタラメ会計処理が更に明らかになり、と反対討論。そして7日に開かれた予算研究会においても、「帳簿に記載していない財産というのは、ウラ財産と同じ。同対事業で放置された土地の保有が一般会計と特別会計に分かれていた。しかも、ウラ財産の売却代金を特別会計に計上する。これは、われわれ町民がトリックにあったようなものだ」とデタラメぶりを追求しました。

他の議員は、田中議員が、デタラメ振りを追求するのではなく、今後は一本にすべき、などと、「なだめ発言」をした以外は「ダンマリ」でした。

やっぱり、同対事業における無法放置土地の問題点は検査決議にもとづく調査が必要です。51箇所以外にまだまだアリソウですから。

町民の春を呼ぶためには「無法」一掃が重要です。